



## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が協力しながら、地域の伝統文化を継承していくための重要な活動と位置付けて取り組んでいる。お盆に行われる港まつりや大晦日に地域保存会が演奏を行うが、帰省した高校生や大人も入って演奏することもあり、子どもたちの憧れや意欲を高める機会となっている。また、本校は留学制度による転入児童があることから、毎年、鹿島太鼓に初めて触れる児童も少なくないが、鹿島の伝統文化を知り、学び、体験できるよい機会ととらえ、練習に取り組むようにしている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



練習風景①



練習風景②



令和2年度学習発表会での発表①



令和2年度学習発表会での発表②

## 8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

### 【3年生児童】

- ・ 「今年は締太鼓です。」と言われてびっくりしました。でも、お姉ちゃんになった気分がして、頑張ろうと思いました。初めて叩く締太鼓のリズムは難しくて、練習はこれまでより大変でしたが、お父さんお母さんが学習発表会を見に来てくれるので一生懸命頑張りました。
- ・ 学習発表会の本番では緊張したけど、失敗せずに叩くことができました。新型コロナウイルスで大変なこともたくさんあるけど、聞いてくれたおうちの人や地域の方が元気になってほしいという気持ちを込めて演奏しました。

### 【教職員】

- ・ 毎年、保護者・地域の方々が楽しみにしていられるので、限られた回数の練習は、毎回真剣です。毎年児童の入れ替わりが多いため、最初はなかなか音が合わず、リズムを覚えるのに必死ですが、練習を重ねるごとに音がそろうようになり、児童は達成感を感じつつ練習を楽しみにしています。今後も鹿島の伝統の担い手として、鹿島太鼓に関わり、よき伝統を受け継いでいって欲しいと思います。